

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	BLUE PLANETS はいき		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 1日		～ 令和 6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 40
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 1日		～ 令和 6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和 6年 12月 1日		～ 令和 6年 12月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	33施設(46名)	(回答数) 33
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士が主で訪問支援員を行っており、専門的な視点から観察し、助言を行っている。	保育園や学校といった集団適応や社会性の発達において必要な、具体的な支援方法や環境調整について、現場の先生と一緒に検討している。また、療育・アセスメントに関する書籍を定期購入したり、研修に参加し、最新情報を共有している。	今後も継続して、専門性の高いスタッフが訪問し、子どもの特性に応じた具体的な支援について助言していく。
2	医療機関や教育機関といった関係機関と連携し、保育園や学校での様子とすり合わせながら、助言を行っている。	知能検査などのフォーマルなアセスメント結果などを踏まえて、訪問先施設での様子を観察し、活動内容や学習内容、集団適応、ソーシャルスキル等の助言を行っている。	今後も関係機関と連携して、様々な視点から集団適応ができるための、方法・配慮等を検討していく。
3	肢体不自由児のお子さんにおいても、介助方法や環境調整を支援している。	補装具や座位保持椅子の調整、生活動作や移動のための介助方法の検討を行っている。学習するための準備や学習道具の工夫について、検討している。	集団活動に参加しやすく、集団生活に沿った、環境調整、介助方法等について、助言をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者が多く、訪問の頻度を保てない状況があり、訪問支援員が不足している。	利用者の増加に対して、訪問支援員が1名で対応している。訪問支援員は児童発達支援と兼務しているため、訪問する時間・機会が限られている。	訪問支援を終了してもよさそうなお子さまは、保護者様と相談し、終了していく。また、マンパワー不足に関しては、支援員の増員を検討していく。
2	児童発達支援や放課後等デイサービスに比べると、SNSを用いた情報発信が弱く、ペアレントトレーニングや家族等が参加できる研修会が行えていない。	訪問支援で保護者様が使用する支援が少ないため。	訪問支援に関する連絡だけでなく、必要に応じて支援技術の情報共有・発信をSNSを用いて行っていく。また、ペアレントトレーニングやソーシャルストーリーズについては、個別に書籍の紹介を行っていく。
3	訪問支援で使用する教材や書籍などを保護者様と共有することができていない。	訪問支援に関して口頭での報告がほとんどで、実際に使っている教材や訪問施設先に紹介した物などを保護者様に伝えることができていない。	保護者様への報告の際に、具体的に教材等を共有したり、連絡アプリなどを用いて情報発信していく。